

「こども園アーティスト派遣事業」

2021年度

『おひるえ』 豊中市立栄町こども園

「こども園アーティスト派遣事業」

目的： アートの力を活用し、未就学児の非認知能力（協調性、自分で考えて問題を解決する力、発想力、頑張る力などの生きていく力）の形成を促す。

対象： 豊中市立栄町こども園（豊中市島江町1-3-9）

期間： 2021年10月12日～2021年1月25日 月2回 全8回

使用施設： 豊中市立栄町こども園 年長クラス教室及びアトリエ（空きスペース）

派遣芸術士： 荒島智子 キッズプラザ大阪プランナー・ワークショップデザイナー
佐藤有紀 平安女学院大学子ども教育学科准教授・平面作家

おひるえ 2021

さかいまちこども園では

小さな子どもたちがお昼ねしている時間、園のかたすみに、ものづくりの研究所が現れます。

この研究所は普段見慣れたものを使ってさまざまな造形体験を試みる場所です。

このあきオープン！ “えのぐけんきゅうしょ”

あやっしー&さとうはかせがやってきたよ。

きりんぐみのみんなが “えのぐけんきゅうしょ” のけんきゅういんだ。



事業内容

おひるえプログラム2021

- ① こなえのぐけんきゅうパラパラ
- ② えのぐづくり
- ③ えのぐけんきゅうフリフリ
- ④ あたらしいいろ あたらしいなまえ
- ⑤ スポンジふでづくりとためしふで
- ⑥ みたてて えがいて ひろげる
- ⑦ おそうじどうぐ+ローラーでかきぞめ
- ⑧ しぜんからきた描画材

- ・年長になりお昼寝の時間がなくなるその時間を活動時間とした。
- ・クラス全員を対象に実施すること、コロナ禍での実施であること、実施場所に独立した通路を利用することから、クラスを2グループに分けるなどの工夫をした。
- ・幼児の移動や安全面の配慮、活動の促しは園の先生方に担っていただいた。

おひるえ① 2021.10.12

こなえのぐけんきゅうパラパラ



- step 1. 子どもたちと芸術士のはじめての出会い
- step 2. “絵の具研究所”へようこそ
- step 3. 粉絵の具研究

準備：作業台を養生する。顔料（赤、朱色、青、黄、やまぶきいろ、黄土色、黄緑、緑、紺色）・太いストロー（一つの色につき一つのストローをさしておく）、茶漉し（人数分、用意、霧吹き、小さくカットしたスポンジ、ボール（水を少しはる）雑巾を作業台に準備する。バケツに水をはる。乾燥ラックに洗濯バサミセットをセットする。紙（ホールケーキのシート人数分）は教室に準備する。

○こなえのぐけんきゅう

step1. 子どもたちと芸術士のはじめての出会い：5分

メインファシリテーターが研究所の博士、サブファシリテーターが博士の助手として登場。自己紹介をし、これから絵の具の実験をすること、子どもたちは博士の弟子の研究員になり一緒にいろいろやってみるといふ期待感が出てきたところで、今日のプログラムに入る。

step2. 絵の具研究所へようこそ：5分

えのぐについて子どもたちとやりとりをしてえのぐは何でできているか子どもたちに質問する。

step3. 粉絵の具研究：グループに分かれ、移動時間を含め45分

①観察 粉絵の具を見る

「粉絵の具は細かくて軽いのでそっとさわらないと鼻の中に入ったり、爪の中に入ったり、服の間に入ったりするよ。そこで、、、これを使ってみてみよう。」

太いストローをこな絵の具の中に突き刺し、紙の上にのせた茶こしにポンポンとたたいて入れる。

茶こしをふると細かいこな絵の具が紙に落ちる。

②実験 濡らした紙に粉絵具を振るう。

一人ずつ紙とスポンジをわたし、違う色のこな絵があるテーブルを移動する。

まずスポンジで紙を濡らす。次に渡し器に粉絵具をストローで入れる。

紙の上に振るう。

■まとめ、次回予告：5分

子どもたちの声を聞いてから次回の予告。

「次は、ほんものの絵具をつくります。」 「洗濯でつかう、洗濯糊と台所で使うこれ（網）とこれ（泡立て器）を使いますよ。よく見て、絵を書いておうちで名前を聞いてきてね。」



「きょうは えのぐのもとを
もってきました。
はい！これがえのぐのもとです。」



「むかしのひとは いろのついた つち いし
ガラスなんかも こまかくこなにして
えのぐをつくっていたらしいよ。」



ストローですくった
こなえのぐを
ちゃこして
ぱらぱら…



「さあ！えのぐのもとを
けんきゅうしてあそぼう。」



ちがういろを
かさねたら
どうなるかな？

みずを
ふやしたら
どうなるかな？



「こなえのぐが みずで へんかするか じつけんしていこう。」



「へんなことできたぞ！」

こなえのぐのふしぎを
はっけんしたね。

おひるえ② 2021.10.19

えのぐづくり

「このまえのけんきゅうは
だいどころでつかうものをつかったね、おぼえてるかな？」

「ちゃこし！」「スポンジ！」

だいどころにあるものをつかって えのぐがつかれるかな？



あわだてき
あみ
レンゲ
ボウルを
じょうずにつかう
けんきゅういん！

さいこうのえのぐ
ができました。



ふたりで ひとつのいろの えのぐを
きょうりょくして つくろう



準備：作業台を養生する。材料：顔料（赤、朱色、青、黄、黄土色、黄緑、紺色）、レンゲ（一色につき一つのレンゲをさしておく）、ボール、（人数の半分）網（人数の半分）、泡立て器（人数の半分）、洗濯糊（人数の半数）、雑巾を作業台に準備する。バケツに水をはる。

○えのぐづくり：導入5分 グループに分かれ、移動時間を含め50分

step1.前回の振り返りの後、絵の具づくりの道具と作り方を説明する。

「今日は二人一組になって絵の具を作ります。」

「協力して作った絵の具がみんなの絵の具になるんだよ。」

step2.移動、二人1組でPVAをボールに半分入れる。

顔料をレンゲですくって様子を見ながら網に振り入れる。

ダマがなくなるようにまぜる。

子どもたちと絵の具の変化をみながら気づきと工夫をうながす。

「どうすればとろとろの絵の具になるかな？」

■まとめ、次回予告 5分

できあがった絵の具をみながら振り返りと次回の予告行う。

「次は、今日作った絵具をわけていきます。」

「使う道具はこれ（漏斗）だよ。おうちで名前を聞いてきてね。」

おひるえ③ 2021.11.9

えのぐけんきゅうフリフリ



きょうはこのじょうごとペットボトル
をつかって えのぐをふやすよ。
まずはシェイクのれんしゅう～

せんたくのりに
えのぐをいれると・・・



「きのこみたい」

「くらげやー」

「なんでのびてるの？」

準備:40本の500ミリペットボトルのうち、半分は3分の1までPVAを入れ教室に持って行く。机は通路中央LINEに斜め向きに配置し新聞紙を敷く。机にはボールに入った絵の具を2色ずつ、PVA4本ほど、空の500ボトル4本とロウト、レンゲを4個、雑巾2枚を置く。濯ぎ用に机と机の間二箇所壁側に水の入ったバケツを配置する。講師台に予備の雑巾、新聞紙、2回目の空ボトル20本と色混ぜ用ミニボトル20本を準備する。

○えのぐけんきゅうフリフリ・全身で遊ぶ

step1. 研究員の子どもたちとこれまでの振り返りを行う。：導入5分

絵の具作りに使用する道具（台所用品）絵の具の作り方についての話をする。

「今日はこの前作った絵の具をボトルに入れて濃い色と薄い色に分けていくよ。」

「みんなで体をいっぱい動かしてシェイクするのでまずシェイク！の練習をします。」

あらかじめPVAのみ入れたボトルを渡す。蓋は絶対に開けないように伝える。

教室内でシェイク（絵の具を振ってまぜる）の実演後、全員でたってシェイクの練習をする。ダンスのような遊びになるように全身をつかってシェイクタイム。

step.2 各自、PVAで濃い色と薄い色を作る。：グループに分かれ、移動時間を含め45分

1本目のペットボトル（PVA3分の1、えのぐレンゲ10杯）2本目ペットボトル（PVA2分の1、絵の具2杯）絵の具は漏斗で注ぐ。1人2本をシェイクする。

出来たものは並べていく。

「濃さの違いがわかるかな？」

■まとめ、次回予告 5分

活動の振り返り「手を大きくのばしたらシェイクがうまくいったり、すごかったね。」

「次はなんと、、、色をいっぱい作っていくよ。今日上手にできたシェイクの技を使ってみんな100の色を作ろう。」



せんたくのりをまぜて



ぜんしんをつかって
シェイク♪シェイク～





「ぼくこんなしたかってん」

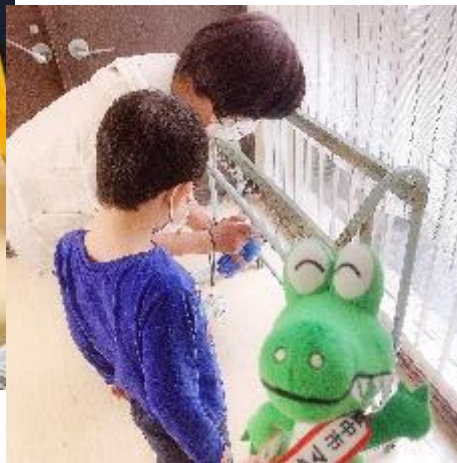
「もっとやりた〜い」

「あかが ちゃいろに みえる！」



「うん、つぎはみんなで
100このいろをつくろう」

「わー」 「どへ〜」



おひるえ④

2021.11.30

step1. あたらしいいろ

step2. あたらしいなまえ



きりんぐみさんの
100このいろを
つくるよ

準備：水の入ったバケツ（じょうご洗い用、替えの水の入ったバケツを外に準備）を挟んで細長く机を設置する。机に新聞紙を敷き、雑巾を置き、じょうごを置く。空の350mmペットボトル半量を机へ置き残りは机下へ置く。PVA余りも台の上へ置く。足りない色の絵の具を追加で作っておく。前回のボトルは教室に準備する。

○あたらしい色、あたらしい名前

step1.混色：導入5分 グループに分かれ、移動時間を含め40分

じょうごを見せてシェイク（混ぜる）の説明をする。

「濃い色と薄い色ができたね。」

「さて、今日はもっとたくさん色をつくって、ここを色々研究所にするよ。」

「新しい色ができたら栄町こども園オリジナルの新しい色の名前をつけてみようか。」

「例えばこれ、まず頭の中で考えていっせいに名前をいってみよう。」

「おお、いいね～ それをラベルに書きボトルに貼ります。」

「いっぱいみんなの色があつまったら栄町こども園カラーの出来上がり！だね。」

「では、みんなが作った色を2つ選んでシェイクして新しい自分だけの色を作ります。」

「さあ実際にやってみよう」

各自、混色シェイクし教室に持ってもどり名付けに移る。

step2.命名：10分

教室で個別に対話しながらラベルシールに新しい名前をつけ、並べていく。

字が書ける子どもは自分で書き、書けない子どもは大人が書く。

■みんなで発表とまとめ、次回の予告 5分

自分の色をみせて名前を発表する。皆で自分たちの作った色をみながら話をする。

「次回は、筆を作って、みんなが今日作った色で試しに描いてみるよ。」

じぶんたちだけのいろだから
じぶんだけのなまえをつけるよ



「このいろの
なまえは？」



「むらさきちゃん」

「せりいじいろ しあわせのなまえをつけた」

「ゆうちゃんいろ くらくなるまえのいろ」



おひるえ⑤ 2021.12.7

step 1 . スポンジふでづくり
step 2 . ためしふで



「わたあめみたーい」

「みてみて～
じぶんでできた」

わりばしとスポンジで
ふでをてづくりしよう



準備：1センチ角のスポンジ（人数×3個）、割り箸（人数×3個）、輪ゴム（人数×3個）を教室に準備する。壁にロールクラフト紙（＃70 1091mm×30m巻き1本）を貼る。床を養生して机をおき、ボトルを置く。子どもが裸足になるため、作業後に足を洗うことができるよう、たらいにお湯をはりタオルを準備する。

○スポンジふでづくりとためしふで

step1.スポンジ筆づくり：15分

教室で前回の振り返りと今回の活動の説明をする。

「今日は前回作った絵の具で絵を描きます。絵を描く道具は自分でつくるよ。」

筆の試作品を見せて、作り方の説明ののち、材料を配布する。

作り方のわからない子どもは大人が援助したり友達同士の協力を促す。

step2.試し筆：グループに分かれ研究スペースに移動：活動時間40分

グループ別に作業する壁面を決め、壁一面に貼った大きなロール紙に試し描きをする。

各自、好きな色のボトルに自作の筆をさしこみ、絵の具をつけて線をつないでいく。

「どんどん動いて描いていこう　どんな線になるかな？」

■まとめ、次回予告 5分

活動の振り返りをする。

「次回は今日作った道具をつかってもっと絵を広げていくよ。」



かべいちめんにはった
かみにためしがき~

みんなで作った
えのぐだから
みんなでつかおうね



「とまらないっ」
「たらしてみよう」

「てがベタベタ」

「ベタベタするのも
おもしろいね」





おひるえ⑥ 2021.12.14

step1.みたて
step2.えがいてひろげる

“こなえのぐけんきゅう”でつくったケーキのかみ。なににみえるかな？
いちまいえらんで おおきなかみにはって、、、



「どんなせかいが
できるかな？」



準備:床を養生してからテーブルを2台離して一方の壁面につける。のりとボンド（人数の半分）、前回のスポンジ筆をさしたペットボトル（一部濃度を上げておく）、雑巾を作業台に置く。水をバケツに入れる。作業後の足湯の準備をする。初回の作品であるケーキ台紙を教室に準備する。

○みたてて えがいて ひろげる

step1.見立て：5分

先週の振り返りと、初回『こな絵の具パラパラ』でつくったケーキ台紙を鑑賞する。作品に広がる世界を見立てて絵を描いていくことを提案し、みんなのアイデアをきく。そこで出た互いのアイデアや発見を共有する。

step2.描いてひろげる：グループに分かれ、移動時間を含め50分

ケーキ台紙にのりをつけて壁面の作品（初回制作）の好きなところに貼る。

(足りないところは大人がボンドで追加し補強しておく。)

貼った地点をもとに絵の具でお絵描きが始まる。

絵の具をのせていきながら、どんどんイメージをひろげていく。

自分の好きな場所で描きはじめるが、描き進むにしたがい自由に描く範囲も自分の物語や友達の物語とともに広がっていく。

■まとめ、次回予告 5分

活動の振り返りを行う。

「みんなのつくった色と自分で作ったふででどんどん世界が広がったね。」

「次回はいろんなものを絵を描く道具にしてもっともっと絵を描いていくよ。

何を描きたいか考えておいてね。」



「火山みたい！」
「きょうりゅう！」 「マグマがいいなー」



つくったえのぐと
ふでで どんどん
ひろげていこう。

「たいよう→うちゅう→ブラックホール！つなげるー」



「はなびかいた」

「ゆきかいた」

「すごいせかいがうまれました」

おひるえ⑦ 2022.1.11

おそうじどうぐ+ローラーでかきぞめ

「しんねんあけましておめでとうございます。
おおそうじのおてつだいはできましたか？」
「ハイ」

「きょうは、いろいろなおそうじどうぐと
ローラーをつかって もっともっとえがくよ。
おそうじどうぐは、、、」



たわし



「いろいろな色がでてきた」

ローラー

スキージ

「おりょうりみたい」
「ゆびでへんのかこう」

モップ



ゆび

準備：ローラー、たわし、スキージー、ブラシ、色味の濃い絵の具、雑巾を作業台に準備する。
床は養生し、壁から前回の作品ロール紙を外し、養生した床の上に設置する。

○お掃除道具+ローラーで書き初め：導入、移動含め50分

ここまで作ってきたものを振り返る。

掃除に使う様々な道具、工具（ローラー）などをしょうかいしながら反応を観察する。

「今日はいろいろなものを筆の代わりにして絵を描いてみよう。」

「いろいろな道具を用意しているのでいろいろためしてみよう。」

■まとめ、次回予告 10分

今回制作した絵は、園のお遊戯会の背景につかえることを伝える。

「次に何を大きく描きたいか考えておいてください。」

「大きな紙でどんな世界つくれるかな？」

子どもたちから出てきた言葉を拾いながらイメージをひろげる。



おひるえ⑧2022.1.25

しぜんからきた描画材

やなぎのもくとんと ほたてがいのチョークで ドローイングだ



えがくのだいすき



「やみのせかいの感じがする」



「エルマーのきをかく」

「むらさきだらけ〜」



「かいきげっしょく」



準備：前回作った作品（ロール紙）を壁面から外し、廊下一面に敷く（養生なし）。描画に使用するカラーチョークはあらかじめ作品の上にランダムに配置しておく。教室に画材（木炭・チョーク）と試し描き用の梱包用紙（3枚）を準備する。

○しぜんからきた描画材

step1. カラーチョーク、木炭でドローイング：導入15分 素材の説明

前回の活動の振り返り 今回の活動の説明

「昔のひとはどんなものを使って絵を描いたでしょう？」

古くから使用されてきた描画素材についてのお話のあと、今回使用する木炭とチョークの原料のお話（やなぎの木炭と貝のチョーク）をする。

グループに分かれ、自由に木炭で試し描きをする。

「どんな線がひけるかな？」 「これで何を描こうかな？」

チョークはあらかじめ作品の上に撒いてあることを伝え、ためし描きをした木炭とチョークでこれまで作ってきた大きな作品の上にさらにいろいろなものを描こうと促す。

step2. 自然素材で絵をつくる：移動時間を含め30分

木炭を持って全員廊下に移動し、絵の上に置いてある様々なチョークも試しながら、好きな場所に自由に描画を楽しむ。

■最終回まとめ、記念撮影 15分

完成した作品を廊下から教室にもって入り

全体が見えるように持ちあげて鑑賞する。

全体の活動を通して振り返りを行う。

作品を背景に記念撮影をし、おわかれの時をむかえる。





「イエーイ どはでによごしたよ！」



みんなとおもいきりあそべてうれしかったよ。
これからもエルマーみたいにどンドンぼうけんしよう。

みんなのえがおをわすれない！
げんきいっぱい まいにちを たのしんでね。

あらっしー & さとうはかせより



保育のなかのアート

芸術士について

2021年、豊中市でレッジョエミリアの教育実践をもとに芸術士（アーティスト派遣）を企画すると聞いたときアートと保育との関わりの理想の姿を考えた。アート、というと何か崇高なものと捉えられ、特別なものとされている傾向があるが、本来は日常での美的体験をともなう人間の活動を意味するものである。

芸術士は、様々な素材や道具を使い、素材の形を変えて表現することを子どもと一緒に楽しみながら子どもの探究、学びを深め、表現を引き出す人である。レッジョの教育思想は日本の保育要領と多くの面で共通している。本来のアートの役割である非認知的能力を育てることを軸とし、保育の5つの領域をゆるやかに横断する活動『おひるえ』を提案した。※参照1

※参照1 レッジョエミリアの芸術士

イタリアのレッジョエミリア市の公立の幼児学校に駐在しアトリエリスタとよばれる。

アトリエスタは、子どもたちとともに生活を行い、園のアトリエスペースで子どもたちとともに創造活動を行いながら子どもたちの創造性、想像性と知識を豊かにするなど育ちのサポートを行っている。

レッジョエミリアの幼児教育は世界から注目されており世界各国の教育研究者が現地を訪れ、日本でもその取り組みを紹介する展覧会が開かれている。また国内の園でもアトリエリスタを置いての取り組みが始まっている。これらの取り組みはイタリア(レッジョ市)のものを日本それぞれの地域の事情、幼児教育の環境に合わせて独自の方法で実践されている。(レッジョエミリアの教育実践にメソッドは存在しない。)

レッジョエミリアの教育実践はICT機器を利用した目を引く造形活動や、イタリア現地の素敵な素材(工業製品のリサイクル素材)を使った子どもたちの独創性あふれる造形物、のイメージが強い。さらに注目すべきはこれらの活動が子どもたちの興味、関心をもとに子ども主体で行われているということである。

『おひるえ』の活動を行う上での芸術士の役割は「アートの種をまくこと」といえる。芸術士が創造活動に新たな視点を持ち込むことが、日々の保育を広げる一つの要素になる。芸術士は子どもたちとともに研究したり探求したりする専門的な伴走者である。

今回は使いなれた「えのぐ」素材、そのもとをたどり、触れて加工し、身体全体を動かしながら創造力を用いて遊びこみながら造形あそびを行った。造形活動で使う材料、道具も子どもたち自身で手作りしたものや、家庭で使用する台所用品や掃除道具、などである。

作品を仕上げる以上の新たな発見のプロセス、気づきを重視した。また自分の手を使って、活動そのものに没頭する時間やできたものを通してまわりの友達や大人と生まれる交流を大切にした。

今後の展望

今後、この『おひるえ』をもとにした実践を、豊中市南部4園に拡大することを目指す。その為に2022年度は、この目的に関わりプログラムを実施することのできる芸術士の養成にとりかかりたい。芸術士の養成により、実施園をふやすことが可能になるだけでなく、2024年頃には芸術士個々の専門性を生かしたプログラムの種類を増やすことも可能となる。

具体的に2022年度は、年度開始前に園の年間計画に照らし合わせ、『おひるえ』の時間を組み、保育教諭の新たな負担を減らせるよう努めるとともに、実施内容を事前に共有し連携を強めたい。

また、アトリエの構想の試行を提案したい。※参照2 現時点では、『おひるえ』の実践は限られた時間内で行われている。次年度は1回の『おひるえ』の時間の毎実施後に次回のプログラムまでの時間をアトリエの時間あてられないだろうか。そこで、できたものの途中経過を展示し、子どもの行動の観察、試作、遊びの展開を促し、子どもたちと個別に向き合うことができる。その際、園の先生と次回の実施内容を共有し、子どもの様子の聞き取りを同時に行いながら保育教諭との連携を強めるねらいもある。

※参照2 レッジョエミリアのアトリエ

レッジョエミリアの園には芸術士（アトリエリスタ）の他にアトリエの存在がある。アトリエがオープンしている時間はいつでも出入りできる。

アトリエとは・沢山の素材や道具が揃っていて、工房、素材の研究、あたらしいものを生み出そうと研究しているところ・新しい発見があるところ・なにか面白いものが生まれるところ・継続する活動があるところ・ものをつくる場所・構想を練るところ・アイデアがわきでるところ・（様々な素材、資料）アート作品、つくりかけ作品があり活動の経過がわかる場所・そこで実際にもものづくりをしたり、研究したりして楽しんでいる大人がいるところ、そんな子どもたちとの学び合いの場である。

芸術士派遣事業実施経費の内訳

品目	数量	単価	金額
材料・器材・その他 ※	1	56,020	56,020
講師料	16	10,000	160,000
交通費	8	1,980	15,840
打ち合わせ経費	8	1,100	8,800
プランニング	1	100,000	100,000
資料制作費	1	100,000	100,000
合計			440,660

※材料・器材・その他 (詳細)

	品目	数量	単価	金額
画材・材料	粉絵具	9	2,500	22,500
	ゲーキ台紙 (台)	1	300	300
	わりばし	1	110	110
	輪ゴム	1	110	110
	木炭	1	1,800	1,800
	チョーク	1	1,544	1,544
	ロールクラフト紙	2	3,618	7,236
	PVA	20	120	2,400
	ラベル	1	500	500
	資材・消耗品	養生シート (床)	1	1,042
養生シート (壁)		1	646	646
梱包材		1	822	822
木工用ボンド		1	600	600
布ガムテープ		4	110	440
養生テープ		4	110	440
替えローラー		4	110	440
ロール糊		10	110	1,100
ペン		1	1,600	1,600
雑巾		2	110	220
道具・器材・その他	クラフト紙	2	780	1,560
	ローラー	4	110	440
	スキージー	4	110	440
	タワシ	4	110	440
	ブラシ	4	110	440
	ストロー	2	110	220
	茶こし	5	110	550
	蓮華	2	110	220
	きりふき	10	110	1,100
	ポウル (網)	10	110	1,100
	泡だて器	10	110	1,100
	ろうと	4	110	440
	洗濯バサミ	1	110	440
	白衣	2	1,840	3,680
合計			56,020	

■芸術士（アトリエリスタ atelierista）

イタリアのレッジョ・エミリア市の幼児教育 実践の要

レッジョ市の公立園には「アトリエ」があり、駐在職員「アトリエリスタ」（芸術士）が子どもの創造性、想像性と知識を豊かにする助け手となる大切な専門家として配置される。

アトリエリスタの役割

- ① 実践に新たな方向性（風）を吹き入れること
- ② ありきたりの実践の考え方に挑戦すること
- ③ 教師と話し合いを重ね、子どもがさまざまな媒介を通して自分の思いを表現するスキルを身に付けることやその幅を広げる支えをすること
- ④ 教師に対してドキュメンテーションのプロセスの助言や実践を行うこと
- ⑤ 園内のプロジェクトと保護者や地域との連携や関係性を育む役割をすること
- ⑥ 教師のアートスキル向上のための職員研修を担当すること

■保育の目標

- ア 十分に擁護の行き届いた環境の下にくつろいだ雰囲気の中で子どもたちの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること。
- イ 健康 安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培うこと。
- ウ 人とのかかわりの中で人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にする心を育てるとともに、自主自立及び協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培うこと。
- エ 生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うこと。
- オ 生活の中で言葉への興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うこと。
- カ 様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培うこと。

■日本の保育5領域のなかでのねらい及び内容とアートの役割・関わり

健康

- ①明るくのびのびと行動し、充実感を味わう
- ②自分の身体を十分に動かし、進んで運動しようとする
- ③健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。

人間関係

- ① 保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
- ② 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ
- ③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける

環境

- ①身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で色々な事象に興味や関心をもつ。
- ②身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活にとりいれようとする。
- ③身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、ものの性質や数量、文字などに対する感性を豊かにする。

言葉

- ①自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- ②人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
- ③日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感性を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。

表現

- ①生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ
- ②いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ
- ③感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ